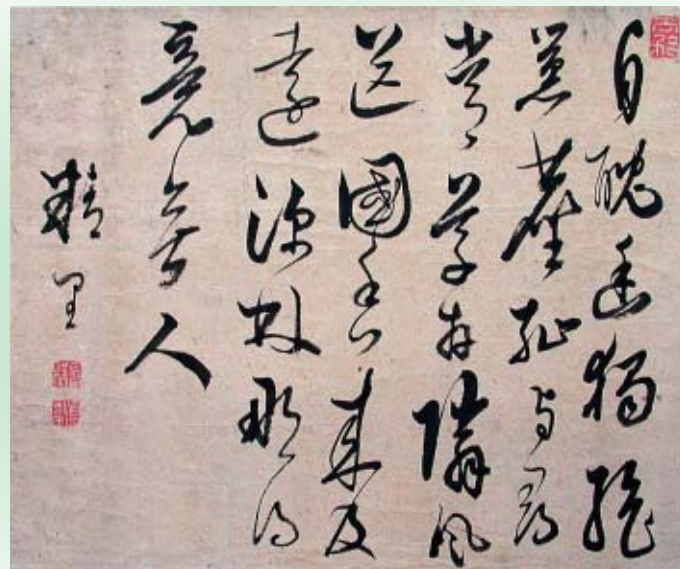


目 次

大学法人化と図書館	1
微生物との長～い付き合い	3
諦観の歳	4
工学系学生の読書について思うこと	5
附属図書館の発展に向けて	6
「高校生が選ぶ『大学に入ったら 読みたい本100選』実施報告	9
第4回 図書館月間を開催	10
「小城鍋島藩と島原の乱展」の開催	12
受入資料紹介	13
図書館統計 平成13年度～平成15年度	15
人事異動	19
図書館日誌（会議・研修・来客等）	20
表紙解説 「色紙 古賀精里」	

ひかり野

佐賀大学附属図書館報 No.29



「色紙 古賀精里」 佐賀大学附属図書館蔵市場直次郎コレクション

(解説は最終ページ)

大学法人化と図書館

附属図書館長 小倉 幸雄

平成16年4月1日、統合後間もない佐賀大学は国立大学法人佐賀大学となった。それに伴って、佐賀大学附属図書館も、国立大学法人佐賀大学附属図書館となった。この制度の変更は、理念においても具体的な諸案件においても、図書館に大きな変化をもたらしたし、これから更に大きな変化をもたらすであろう。

1. 法人化による変化

理念の変化というのは、他ならぬ佐賀大学自体の理念の変化に伴うものである。すなわち、佐賀大学自体が国立ということから脱却して法人として独立し、全て自己責任になったことになることにより理念を大きく変化させた、それに付随するものと言ってよい。それぞれの大学が競争する時代になった今、「(自己責任において理念を掲げて邁進する) 佐賀大学における教育、研究及び社会貢献等の諸活動を支援するため、必要な図書、雑誌等の資料はじめ学術情報を収集し、整理、作成、保存して提供するものとする」(佐賀大学附属図書館規則第2条) ことが図書館の使命となったのである。

それを体現する制度として、図書館を担当する理事がおかれ、予算に関すること、評価に関すること等の全ての主要案件は、その担当理事を通して処理されることとなった。具体的案件の変化としての最大なものは予算であった。すなわち、図書館経常経費の10%削減されたが、これは非常勤職員を多く雇用している図書館に大きな困難をもたらした。ただし、電子ジャーナルについては、別枠で経費の配分を受け、また、元図書館長の岡本悟氏から1千万円の寄付を受けた。この場を借りて岡本氏を始め関係各位に感謝する次第である。

2. 法人化初年度の主な活動

法人化に際し、学長は4つの指針を示された。

学生中心の大学、地域と連帯する大学、国際化の促進、研究教育拠点の形成である。これらの指針を目指して進む法人化した佐賀大学を支援するべく、図書館が平成16年度に行った主な活動は次のようなものである。

- ①電子ジャーナルの購入経費の確保。
- ②「高校生が選ぶ『大学に入ったら読みたい本』100選」。
- ③小城町との地域文化交流協定に基づく「小城鍋島文庫と島原の乱展」と記念講演、出張講座。
- ④図書館月間における文化講演会「芭蕉の文芸—古典への回帰を願って—」と貴重書コレクションの展示。
- ⑤本館の土曜・日曜・祝日の開館時間の移動(9時~17時を11時~20時にした)。
- ⑥評価関係図書の購入・整備。
- ⑦携帯電話による蔵書検索(これは主に学生の利便性のため、1日平均14件の利用がある)。
- ⑧ホームページの改装。
- ⑨図書館ML通信の開設。

この中のいくつかのものは、本報においても別に紹介があり、その他のものについても凡そ内容が推定できるので、ここでは①についてのみ、閑話を挟んでもう少し述べよう。

3. 閑話二題

平成16年(2004)夏、スペインで開催されたあるシンポジウムでのことである。南アフリカのヨハネスブルグから来た、教授と二人の女子学生のグループがあった。やがてプログラムが進み、学生の内の一人在流暢な英語で講演を行い、質問と討論の時間になった。すると、招待講演者でもあるM氏が、「あなた方の話は、SchaeferのBanach Lattices and Positive Operatorsの内容と似ている。再発見をしてはいけません。」と諭し、一時会場がざわつく一幕があった。筆者な

どは、似ているところはあるが、違う部分もあるので、何も公衆の面前でそこまで言わなくてもと、寛容に考えていたが、M氏にとっては許せないことらしい。そういえば、そのM氏はウクライナの著名な数学者の弟子で、ソヴィエト連邦の崩壊の余波で、スコットランドのグラスゴー大学に職を求め、今はスイスのベルン大学に奉職する筋金入りの数学者である。因みに、本学に戻ってから当のH.H.Scheaferの本を蔵書検索で調べて見てみたら、1974年の発行で数冊の登録があった。

京都と大阪の人と計4人で入門書を書いているが、その本の引用文献にJ.PerrinのLes Atomesを挙げるようになった。英語版と日本語版の訳本はあるが、原本に当たっておく必要がある。関西にはないというので、NACSISのWebcatで調べてみた。すると、全国で4冊しかなく、その中の一冊が何と佐賀大学にあるということが分かった。早速借り出してみると、旧制佐賀高校の遺産で、セピア色に色あせた裏表紙にM.Yamasaki, Oct. 1921という署名があった。この種の書き入れは、それにより想像力が掻き立てられて歓迎である。

これら本に限らず、本学図書館は本や雑誌が割合揃っている方である。それを実感する事例は他にも沢山あるが、閑話はこの辺で休題とする。

4. 法人化と電子ジャーナル購入

本論に戻ろう。3で述べた例を引くまでもなく、学術情報の充実が教育・研究にとって欠かせないものであることは論を俟たない。しかし、最近では競争的経費が増加し、それにつれて経常的教育・研究経費が減少傾向にあり、学術雑誌のように継続性が求められるものに対する支出が難しくなってくる。このことは、法人化前から現れていた現象だが、法人化によって顕著になった。その結果、学術雑誌の販売部数が減り、それらの価格が上昇し、それがまた購入を困難にするという悪循環を招いている。出版社はそれを電子ジャーナルにも転嫁するので、電子ジャーナルの価格も上昇する傾向にある。これを誰がどのような形で負担するかは、或いは誰も負担しないで購入を止めるかという問題は、日本中の

大学ばかりでなく、世界中の大学の大きな問題である。

本学では、平成16年度は文部科学省の電子ジャーナル導入経費と、本学の中央経費で賄った。また、平成17年度については、平成16年度の価格までは、同年度と同じ方式で支出するとしての上で、それより増加した分については、1/3を中央経費で、2/3を価格増加の原因となる冊子体講読を中止した部局の負担という案を作成し、予算編成に臨んでいる。しかし、この案を作成する過程で、本格的検討の必要であるという認識に至り、平成18年度以降の購入について検討する電子ジャーナル専門委員会を立ち上げた。同委員会の慎重な検討とその結果に期待を寄せるものである。



微生物との長～い付き合い

医学分館長 医学部教授 高 崎 洋 三

先日新聞に、「海底一万メートルの世界に潜っていた無人探査機“かいこう”が採取した3000種類の微生物から、13種類の新種の微生物を単離した」とあった。水圧の高い暗黒の世界で、じっと種の保存をしてきた生物のどの部分が新種なのか興味が湧いてくる。

我々人類は、バクテリアや酵母といった微生物と長い間付き合いしてきた。だが、今度登場した新種のものとは交わりがなかった訳である。じっくり見極めて付き合いたいものである。

話は変わるが、東大農学部には有馬啓という教授がいた。関係者には大変有名な先生である。彼は、カビからレンネットという凝乳酵素を発見した。元々この酵素は仔牛の胃液に含まれるもので、チーズの製造に使われていた。生まれたばかりの雄牛から胃を取り出し、牛乳に加える、そうやってチーズは作っていた。つまり、その度に雄の仔牛（雄は牛乳を出しませんから）が殺されていたのである。有馬先生の発見は多数の仔牛達の命を救ったし、「キモシン」という商品名の微生物由来の酵素は仔牛レンネットの半額以下で売られている。但し命の助かった仔牛達は、ステーキ用に回されることになった。ともあれ、微生物が人類の生活を豊かにした一例である。

「味の素」という商品の主成分は、グルタミン酸というアミノ酸である。これは、佐賀県諸富町にある工場生産されているが、その原料は沖縄から運ばれて来るサトウキビである。工場では、キビの糖からアミノ酸を生成する代謝能力が強い微生物が働いて、グルタミン酸が作られている。この微生物さえ安定であれば、グルタミン酸が安価に連続的に生産できる。なにしろ微生物培養のコストは安いのである。これは、最善の微生物株を取得した研究陣の努力の賜物といえる。因みに、化学合成によって大量のグルタミン酸を生産する

には数倍のコストがかかる。

我々が核酸の研究を行う際に多数の酵素のお世話になっている。これらの酵素は、さきほどの仔牛や植物から得るものもあるが、殆どが微生物由来の酵素である。それに、他の生物種由来としても、例のクローニングという手法で外来性の酵素を微生物に作らせることができる。従って、我々はこれらの酵素を安価に入手できる。その中にDNA polymerase という酵素がある。この酵素を生産するバクテリアが高温の温泉から得られた。この酵素は熱に対して大変安定であった。耐熱性を利用してPCRという手法が開発され、今流行りのDNA診断に繋がっていく。

このように、我々が敬遠する黴菌とか病原菌といった類のもの以外にも、有用な微生物も多く存在することは、みなさん周知の事実であろう。

微生物が生産する酵素の中に制限酵素というものがある。DNAを選択的に切断する酵素なので頻繁に使われている。今までに数千種類の制限酵素が発見されているが、殆ど重複しており、最近新規な制限酵素は発見されていない。話は少し反れるが、10年ほど前に、米国における研究会で私が出会った中年の女性研究者を紹介したい。彼女は、祖国ウクライナの湖沼からバクテリアを採取して、新規な制限酵素の有無を調べていた。丁度ソ連が崩壊した時期であり、科学研究費は枯渇していた。彼女は英語を話せないし、親しく話し合う友人もいなかった。しかし、彼女の発表したポスターを見て驚いた。彼女はウクライナの湖沼から千種類以上のバクテリアを単離した表を掲示していた。そして制限酵素が存在すれば、どんな特性を持ったものか詳細に示していた。失礼だけど、彼女は米国に渡航することも困難だったろう。身なりもパツとしない。でも、彼女の研究に対する執念に敬服した。外見で判断した私が愚か

だった。彼女の研究は現在、どこまで進んだのだろうか。実験する事が彼女の人生だから、成果や名誉など自分でも期待していないのかも知れない。

美味しいゴーダチーズを作るカビ、効率よく味の素を作る細菌、初恋の味を守り続けるカルピス製造用乳酸菌、風味豊かな焼酎を作る酵母、創傷や疾患によく効く抗生物質を生産するカビ、どれも最適な微生物を発見した研究者の勝利である。

でもそれとは無関係に、微生物とトコトン付き合っていて、研究の喜びに浸っている人達の存在を許して欲しいものだ。微生物の発見者であるパスツール先生もその事を許してくれるのではないか。それが人類のゆとりと言おうか、文化とも言えるのではないだろうか。

諦観の歳

文化教育学部 教授 美術・工芸講座 牛 塚 和 男

いつの頃だったのでしょうか、あまりにも昔のことで、よく覚えていませんが、川の土手に幼子らしき今と違う私が入り、なつかしく幸せな気分に入っているのです。しかし、いつの間にか止めようもなく、辺りが眩しいほど限りなく白くなり、悲しみの極みにいたる奇妙な夢を幾度となく見たのです。なぜかそこには柿木があり、道がありました。その夢を見はじめると、こころの芯から逃げ出したくなるほど切なくなるのでした。過去なのか未来なのか分かりませんが、でもそこにいたのは紛れもなく別のわたくしなのです。そう、それは平穏な日にもあまりにも突然降りかかったその世界最後の刹那の記憶もしくは予知めいたものなのかも知れません。いつしか青年になって以降、私はその夢を見なくなり、そのことを忘れてかけていました。唐突に、なぜか最近になってその夢を見たのですが、見ている側も見る内容もそのときの感覚も全く同じでした。

ゆめうつつ、夢現と書きますが、寝ているのですが、起きかけている時、予め自覚してその状態で様々な事象や記憶をたどると、百科事典を検索するように文章や絵柄が図像として明快に現れてきます。それに気付いたのは最近のことです。これは便利なので、その時が楽しみになりました。

しかし、凡人の成せる業か、確実にその時を自覚できないでいます。しまったと後悔しながら朝のまどろみを迎えることが多いのです。そういえば、初老になった私は極端に睡眠時間が短くなりました。40になって始めた西洋的哲学の基礎独学もようやく古代から現代までほぼ終わり、55になってしまいましたが、己の世界観を定立できず、また、芸術としての世界像はいつになったら創りあげられるのでしょうか。日本画は60才からと云われますがどうなることやら。

ボッチチェルリの描いた「ビーナスの誕生」や「春」はあまりにも有名ですが、その絵を見るために世界中からイタリアに人々が訪れます。凄いことです。たった一枚の絵を見るために大枚を叩いて来るのですから。伝統的などころでの今の絵画や彫刻にはそんなものはありません。とは云ってもごく一部の人がそう思っているだけでしょうが、その芸術環境は鑑賞する時代から自分でやる、実践する時代へとゆるやかに変転しつつあるのです。勿論、テクノロジーの革新による表現は端緒についたばかりですし、文芸をはじめとする演劇や音楽や映像などはまだまだ芸術的機能をはたすのでしょうか。しかし、古い形態の芸術が終焉を迎えているのも事実なのです。人々は解放されつつ

あります。見る側ではなく、創る側に喜びを感じているのです。他人が創ったものには多くの人が関心はないのです。質は問題ではないのです。嬉

しくも悲しい現実なのです。あっ、そういえば、平凡社の哲学事典、売り切れだそうです。

工学系学生の読書について思うこと

理工学部電気電子工学科 助教授 深井 澄夫

20年以上、工学系の学生とつきあってきた経験から、学生の読書についてふれてみたい。工学系の学生にもかわらず、一昔前の学生の読書量には驚いたことがある。その対象の本は専門関連に限らず、多岐にわたっていたようである。

工学系学生の読書量が目に見えるように減り、大学院生や卒業研究生の机の上に本を見るのが少なくなってきた。現在、大学時代に十分な時間がとれるにも関わらず、読書に要する時間は少なくなり、文芸作品に限らず専門の工学関連図書も読まない学生が増えているようである。(近年は、教科書・参考書を買わない学生が増えてきたとの話も聞く。)

しかし、読書の工学系学生に与える影響は多大な物があると思う。近年のロボットや宇宙開発に携わっている研究者の逸話やインタビュー記事を読むと、少年時代に読んだ雑誌や漫画、小説などの影響が大きいことが述べられている。少年時代の夢を形成する一原因としての読書の位置づけは重要なものがあると思われる。言いすぎかもしれないが、少年・青年期の読書が読者の夢や希望を形づけていると言うこともできる。

現在の工学系でのブレイクスルーがいろんな分野に求められている。これらのひとつの解答は、創造性であろう。工学系で夢や目標を持つことは重要なことであり、それは自分で考え創造したものであればあるほど強靱なものとなり、創造性へと成長していくようである。

現在の学生に工学的な素養の一つである想像力や夢を養う一つの方法として読書を提案したい。

いくつか種類があるが、ショートショートとよばれる分野の作品の読書をすすめたい。ショートショートとは、とても短い物語のことであり、手軽に読めるというだけでなく他の小説とは違う味わいを備えている。一言、一文の表現が、文脈の中で重要な位置を占め、単に短いのではなく、十分な推敲がなされた作品である。

文学系の作品は表現が丁寧に説明されており、その表現から記述されている内容を思い浮かべる作業を伴うものであるが、ショートショートはそのような文章表現は無いに等しい。ページ数も少ないため、読書に不慣れな最近の学生や集中した時間がとれない人にも十分読むことができると思う。話の筋、展開、おちが推敲された短い文章の中につめこまれて、詳しい表現が少ないため、同じ文章を読んでも、その情景や背景は、読者の個々人が創造する必要がある。

このような読書はいかがだろうか。(作品数や内容の豊富さから、星新一(故人)の作品がおすすめである。)

附属図書館の発展に向けて

—統合・法人化後の図書館の位置付け—

学術研究協力部情報図書館課長 金子弘康

1. 『佐賀大学附属図書館の組織』

新生佐賀大学の図書館については、既存の両大学の図書館を存続させ、両図書館の機能を維持しながら、両キャンパスの利用者に従来に優るサービスを提供することを前提にしている。

図書館の組織は、旧佐賀大学附属図書館を「本館」とし、旧佐賀医科大学附属図書館を「医学分館」として、図書館長、医学分館長をそれぞれ配置した。

また、事務組織については、事務局学術研究協力部に所属した情報図書館課を設置し、課長（1）を置き、事務を所掌するために、課長補佐（1）、係長（7）、を設置した。両図書館に配置する係は、原則として利用者に直接対応する係を除いて、本庄キャンパス図書館に集約して業務の合理化を図った。このような体制をとることにより、教育・研究を支援する情報関連部局と密接な連携をとりながら、図書館の業務効率化とサービスの向上を図ることを可能にした。

2. 『附属図書館の役割』

附属図書館の目的として、佐賀大学附属図書館規則第2条には「図書館は、佐賀大学における教育、研究及び社会貢献等の諸活動を支援するため、必要な図書、雑誌等の資料はじめ学術情報を収集し、整理、作成、保存して提供するものとする。」

としている。附属図書館としての本来の役割は教育・研究・学習支援のための資料を収集・整理・保存し、利用の効率化に努めたり、利用環境を整備したり、利用者の求めに応じて迅速に対応することなどが求められている。

図書館機能の整備・充実のためには①学習図書館としての機能の強化、②教育・研究活動を支援する機能の充実、③専門的職員の養成、④地域コンソーシアムの形成、⑤全国大学図書館との連携・強化等を図ることが重要となる。以上の強化・充実のためにはライブラリアンと教員、更には地域住民と密接な連携、が今まで以上に重要な課題となってくるのではないかと考えられます。

また、学内はもとより、学外からの図書館運営への関与が重要な課題となり、益々責任の重さを痛感する。

3. 『附属図書館の基本的課題』

(1) 学習用図書費の経常経費化と蔵書構築

附属図書館はこれまで学生、教職員の学習、研究に必要な資料の整備・充実に努めてきたが、予算確保に保証がなく、執行にもかなり遅れが生じ、利用者にもかなりの不便をきたしてきたのが現状である。平成15年度からは前館長のご尽力により学生用図書費の経常経費化が認められ、年度当初からの執行が可能となった

ことは高く評価される。

また、地域社会にも還元できる図書館として、独自の視点に立った計画的な取集体制の確立であるとか、教職員一丸となった収集における組織的な選書方法を構築することが必要である。平成16年度に選書専門委員会を立ち上げた。このことにより大学のより良い蔵書構築を検討することにより、蔵書の整備・充実に貢献できることを期待される。

(2) 「図書館月間」の更なる発展

平成13年度から実施している「図書館月間」とは①図書館の利用を促進し、活性化を図る、②メディア活用の能力を高める、③図書館を地域社会へ開放・貢献することを目的としている。毎年、公開セミナー、文化講演会、貴重書の展示（小城鍋島文庫、市場直次郎コレクション）等を開催している。平成16年度は大学オープンキャンパスの開催時期に合わせ、11月15日から11月22日の期間「市場コレクション」の中から佐賀にゆかりの近世文人の短冊、色紙を、附属図書館1階ロビーにて展示公開した。

また、11月9日には、「芭蕉の文芸—古典への回帰を願って—」というテーマで佐賀収入役の上野信好氏を講師による文化講演会を開催した。入場者は学内はもとより、近隣地区の住民からも多数参加があった。

(3) 電子ジャーナル経費の確保

電子ジャーナル導入については文部科学省が平成14年度から3年間の予定で医学系、理学

系、農学系の部局がある62の大学にElsevier Science社のライフサイエンス6分野等の電子ジャーナル経費の予算措置がなされた。

電子ジャーナルの利用に際しては、①冊子体の購読料金だけで利用できるもの、②冊子体の購読料金に追加料金を支払うことで利用できるもの、③電子ジャーナルの単体の購読料金を支払って利用できるものの3種類に分けられると思う。電子ジャーナルは、インターネットに接続できる環境があれば学内のどこからでも24時間いつでも利用可能である。また、冊子体の重複購入を解消し、研究費を有効に使用するための手段にも成り得る。それから図書館においては書架のスペース、製本費の節約もなり、メリットが大きいのが特徴である。

しかし、本学では年々雑誌の価格高騰と教育・研究、経常費の縮減により各学部において「Core Journal」の中止を余儀なくされている。一方では附属図書館では電子ジャーナル導入を積極的に進めたいと考えているが、「購読額の維持」と「追加料金の支払い」の財源の問題で頭を抱えているのが現状である。附属図書館では、種々運営委員会で予算の確保に何とか乗り越えてきたが、今後、文部科学省からの予算が減額されることが予想されるので、示達されなくなれば、学内で予算を確保することを求められる。附属図書館が教育・研究を支援する機関として機能できなくなれば、研究者にとっても打撃を被ることは必至である。今年度、電子ジャーナルの購入、関連する事項についての調査・検討する委員会を立ち上げたので、効率的、

合理的な購入方法の検討がなされることを期待する。

(4) 専門的職員の養成・確保の充実

附属図書館に蓄積された情報の活用を図るためには、職員の養成・確保と館員が情報化に対応できる必要な知識、専門的な能力等を習得できることが重要である。

図書館資料の収集・管理に加えて特殊コレクション（貴重資料等）などを整理・保管・提供し、研究者とより密接に連携してゆける能力を身につけることが必要不可欠となる。また、電子図書館機能の整備・充実に向けて、学術情報処理センターとの連携を密にすることが必要になる。

(5) 地域社会との連携

本学は平成元年4月に一般市民への開放を開始した。当初は館内閲覧のみであったが、平成

11年度以降は貸出も行っている。また、土曜日・日曜日・祝日開館も実施している。

県内の公共図書館との連携に関しては、平成12年5月に県立図書館、市立図書館、佐賀大学附属図書館の館長が「連絡会議」の設置を協議し、「佐賀県連絡会議」「申合わせ」等を作成し運用を図ってきたが、有名無実であったため、統合と法人化を経た後の「新しい佐賀大学」として真に必要とする協力組織（大学や自治体に認知された公式のもの）として今後検討することになっている。さらに生涯学習という観点からも、大学図書館と地域の公共図書館との連携も視野に入れた、地域社会への開放を目指す必要がある。



「高校生が選ぶ『大学に入ったら読みたい本100選』」 実施報告

平成16年8月から10月にかけて、「高校生が選ぶ『大学に入ったら読みたい本100選』」プロジェクトを実施した。全国でも初の試みである。

趣旨

若者の活字離れが進む中、様々な機会を捉え学生が図書に親しむ動機付けを行い、学習・教育と人格の形成を支援することは図書館としての使命である。一方、高校生諸君は、強い読書意欲をもっているが、受験の準備で十分な読書時間をとれないことが多く、大学に入学したら読んでみたい本（または今読みたい本、友達に薦めたい本など）もたくさんあると思われる。これらの希望を投票という形で集計し、投票数上位100冊を図書館で購入して、入学と同時に学生諸君が活用できるようにしたい。また、投票の結果を公表し、高校生諸君の読書志向を把握する一助にしたい。

実施日程

- ・先行投票：8月2日（月）、8月4日（水）（オープンキャンパス）
- ・本投票：9月1日（水）～10月11日（月）
- ・集計期間：10月12日（火）～10月26日（火）
- ・発表：10月27日（水）（図書館月間及び読書週間開始日）

投票対象者

先行投票では、オープンキャンパスに参加した高校生を対象とし、本投票では、佐賀県内の全高校及び平成16年度に佐賀大学に入学した学生の出身高校（計約400校）を対象とした。

実施方法

先行投票では、オープンキャンパス参加の高校生に投票用紙を配布し、その場で記入して提出して頂いた。本投票では、投票用紙を対象の各高校へ配布し、記入したものを郵便またはFAXで送付して頂いた。また、先行投票・本投票ともに、当館でWEBから投票できる画面を用意し、インターネットを利用して入力して頂く方法も採用した。さらに、全投票者の中から、抽選で20人の方に図書券(2,500円)を贈呈することとした。



先行投票風景（オープンキャンパス）

実施結果

高校生の皆さん、及び各高校の先生方のご協力により、投票人数3,886人、投票冊数7,086冊のデータを収集することができた。集計の結果、上位100冊のリストを図書館ホームページ及び新聞・テレビ等で公表した。この100冊はすでに購入済で、閲覧室へ配架し、閲覧・貸出等の利用ができるようになっている。

100冊リストの公表後、いくつかの高校図書館や公共図書館より、広報等のためにリストを使いたい旨の問い合わせを頂いた。ささやかではあるが、読書奨励の一助になったとすれば幸いである。

順位	書名（著者名）
1	ハリー・ポッター（J.K.ローリング）
2	世界の中心で、愛をさけぶ（片山恭一）
3	バカの壁（養老孟司）
4	Deep Love（Yoshi）
5	“It”（それ）と呼ばれた子（デイブ・ベルザー）
6	Good Luck（アレックス・ロビラほか）
7	蹴りたい背中（綿矢りさ）
8	蛇にピアス（金原ひとみ）
9	ダレン・シャン（ダレン・シャン）
10	解夏（さだまさし）

上位10冊

第4回 図書館月間を開催

今年も学内外者に図書館利用の活性化や一般市民の図書館利用の促進を図る目的で、11月を図書館月間として位置付けし、文化講演会の開催、貴重コレクションの展示や全国の高等学校へアンケート実施した「高校生が大学に入ったら読みたい本100選」のリスト公開等を行った。例年開催していた公開セミナーの開催を諸般の都合上実施できなかった。

1. 貴重コレクション展示

今年も学内外者に対して同時期開催の佐賀大学オープンキャンパス（11月20日）に併せて特別展示とした貴重コレクション公開を実施した。市場直次郎コレクションの中から佐賀にゆかりの深い中世から近世の文人の短冊、色紙を11月15日～11月22日まで1階ロビーにおいて展示を行った。

展示した短冊は（中院通躬、古川松根、鍋島直大、鍋島直興、今泉蟬守、糸山貞幹）、色紙は（成富椿屋、高遊外、大潮元皓、古賀精里、今泉蟬守、柴田花守）の合計18点である。筆者自筆の筆跡、図案を直に見ることで来館者に感動を与えることができた。

（展示物の選定及び解説は文化教育学部井上教授に依頼した。）



2. 文化講演会

今年度は講師に市井の芭蕉研究者として名高い佐賀市収入役上野信好氏を招いて「芭蕉の文芸－古典への回帰を願って－」と題して講演会を開催した。

講演では、芭蕉の生立ちから成人期の江戸での生活、句作の背景、大垣での死亡に至る生涯をたどり、有名な割に一般人には案外知られていない芭蕉像を持参された研究資料とスライド等で講演され好評であった。また、交友があるドナルド・キーン氏から贈られた色紙も披露された。

この企画の担当者はポスター作成からスタートし、県内の図書館、地域の公民館、マスコミ関係と広報に汗を流した。

下に当日のレジメを紹介します。

芭蕉の文芸　－古典への回帰を願って－

- 1 松尾芭蕉の生涯
- 2 芭蕉文芸の特質
 - 2-1 完成までの過程
 - 2-2 座の文芸
 - 2-3 芭蕉と旅
- 3 芭蕉文芸の光と陰
- 4 古典への回帰を願って
 - 4-1 古典文学に進化はあるのか
 - 4-2 古典の持つ魅力



「小城鍋島藩と島原の乱展」の開催：桜城館との文化交流協定による

学術研究協力部情報図書館課長 金子 弘 康

地域文化交流協定の一貫として佐賀大学附属図書館と小城町との間で平成15年2月19日地域文化交流協定を締結した。締結の主な目的は①図書資料等の相互利用はじめ刊行物の交換、②社会貢献推進のための交流活動の実施、③地域との交流拡大等期待される事業である。

昨年に引き続き今年度は、交流事業の一環として、また桜城館の開館5周年を記念して小城町教育委員会と共催の「小城鍋島藩と島原の乱展」を平成16年8月10日（火）から9月19日（日）の日程で小城町立歴史資料館企画展示室（桜城館）を会場に開催した。

本学附属図書館所蔵の小城鍋島文庫の中から展示された主な展示資料は「鍋島若狭守他連署血判状」、「鍋島勝茂書状」、「陣立図」、「元茂公御年譜」等、特別展示（長崎県南有馬町教育委員会）として「メダイ」、「弾丸」、「砲弾」、「十字架」が展示され、その他図録の販売や講演も行った。以下は講演内容である。

1. 「小城鍋島藩と島原の乱」 講師：宮島敬一 平成16年8月21日
2. 「古墳時代の佐賀」 講師：佐田茂 平成16年8月28日
3. 「原城跡出土のキリシタン遺物」 講師：松本慎二 平成16年8月29日
4. 「戦国時代を生き抜いた武将たち」 講師：宮島敦子 平成16年9月11日

今回の企画にあたっては経済学部の宮島敬一氏を中心とした「文系基礎学研究プロジェクト」の一環として図書館のスタッフ、桜城館のスタッフの方々と協同しながら展示物資料の借用や業者との綿密な打ち合わせ、古文書の解析やこの事業を推進してきたことは大変意義のある事業であった。



宮島教授による「島原の乱展」の説明



小城町歴史資料館展示風景

平成16年8月1日から、医学分館の開館時間が変更になりました。

学 期	曜 日	有人開館	無人開館	備 考
授業期	月～木曜日	9：00～21：00	21：00～翌日 8：30	* 国民の祝日等休館日の前日は、有人開館終了後、無人開館はありません。
	金曜日	9：00～21：00	21：00～翌日10：30	
	土・日曜日	10：30～18：30	閉館	
休業期	月～木曜日	9：00～17：30	17：30～翌日 8：30	* 各期休業期の日曜日、国民の祝日、および年末年始は休館日です。
	金曜日	9：00～17：30	閉館 又は 17：30～翌日10：30	
	土曜日	閉館	閉館	

* 夏期休業期の一部（未定）について、特別に土・日曜日を通常期間と同じように開館します。

* その他、臨時に休館することがあります。 * 無人開館中は、学外者の方は利用できません。

● 受入資料紹介 ●

● 学生用図書

平成15年度学生用図書経費により以下のとおり図書を購入了。 (冊数はいずれも非図書資料の点数を含む。)

教員推薦図書	1,585冊
学生希望図書	149冊
図書館推薦図書	484冊
継続購入図書	244冊

● 寄贈図書

○ 大学関係者著作図書

名誉教授 前間良爾

[共著] 鈴木亮氏追悼文集／鈴木亮氏追悼会 鈴木亮氏追悼会

文化教育学部教授 井上敏幸

[共著] 鍋島直郷西園和歌集：翻刻と解説／井上敏幸、松尾和義 編著 風間書房

文化教育学部教授 諸泉俊介

[共著] イギリス経済思想史／小柳公洋、岡村東洋光 編 ナカニシヤ出版

経済学部教授 鷹巢信孝

[单著] 社団法人（株式会社）の法的構造：企業と団体の基礎法理Ⅱ／鷹巢信孝 成文堂

理工学部教授 小倉幸雄

[共著] Limit theorems and applications of set-valued and fuzzy set-valued random variables/Shoumei Li, Yukio Ogura and Vladik Kreinovich Kluwer Academic Publishers

理工学部教授 上原春男

[单著] 創造の原理／上原春男 日本経営合理化協会出版局

農学部教授 柳田晃良

[共著] Essential Fatty Acids and Eicosanoids:Invited Papers from the Fifth International Congress/Yong-Sheng Huang,Shing-Jong Lin,Po-Chao Huang(ed.) AOCS Press

[共著] Diacylglycerol Oil/Yoshihisa Katsuragi(et al.) AOCS Press

海浜台地研究センター教授 小林恒夫

[単著] 半島地域農漁業の社会経済構造/小林恒夫 九州大学出版会

○その他

文化教育学部教授 古川末喜

唐代詩禪关系探蹟/卢燕平 甘肃文化出版社

李白杜甫诗歌艺术探蹟/卢燕平 中央编译出版社

东瀛去来詩簡/卢燕平 出版社不明

医学部教授 向井常博

Try Another Challenge/長浜正彦 篠原出版新社

医学部教授 宮原晋一

今日の臨床検査 2003-2004/河合忠監修 南江堂

医学部教授 大田明英

Topographical Atlas of Human anatomy/Seiho Nishi, MD 金原出版

末次祐司

[単著] 古賀秀男先生遺稿集/末次祐司 古賀秀男先生遺稿集刊行会

田口光雄

[共著] 現代アンテナ工学/佐藤源貞、川上春夫、田口光雄 総合電子出版社

[共著] マイクロ波シミュレータの基礎/山下栄吉 監修 電子情報通信学会

[共著] 計算電磁気学/電気学会 編

永淵達子

現代世界美術全集 全25巻 集英社

藤井常世

[単著] 藤井貞文全歌集/藤井貞文著、藤井常世編 不識書院

横尾文子

[単著] 白雨コレクション/横尾文子 佐賀新聞社

西田 敬

[単著] 卵巣腫瘍小辞典/西田敬 金原出版

祖父江逸郎

[単著] 臨床のセンス/祖父江逸郎 医歯薬出版

澤口聡子

[単著] 法医学と看護/澤口聡子 鹿島出版会

田島桂子

[単著] 看護実践能力育成に向けた教育の基礎/田島桂子 医学書院

理工学部学生 南里 武

私の履歴書 経済人1.5/日本経済出版社編 日本経済出版社

● 図書館統計 平成13年度～平成15年度 ●

1. 蔵書統計

①年度別蔵書冊数

単位：冊

年度		和書	洋書	合計
13年度	本館	403,651	187,488	591,139
	医学分館	63,033	48,702	111,735
14年度	本館	409,510	190,831	600,341
	医学分館	52,636	47,225	99,861
15年度	本館	388,223	180,912	569,135
	医学分館	57,376	42,324	99,700

②年度別受入冊数

単位：冊

年度		和書	洋書	合計
13年度	本館	5,562	2,299	7,861
	医学分館	1,890	1,499	3,389
14年度	本館	5,884	3,289	9,173
	医学分館	1,428	355	1,783
15年度	本館	5,218	2,532	7,750
	医学分館	1,223	326	1,549

③年度別雑誌所蔵種類数

単位：種

年度		和書	洋書	合計
13年度	本館	6,033	2,823	8,856
	医学分館	955	948	1,903
14年度	本館	6,111	2,841	8,952
	医学分館	958	977	1,935
15年度	本館	6,144	2,858	9,002
	医学分館	997	960	1,957

④年度別雑誌受入種類数

単位：種

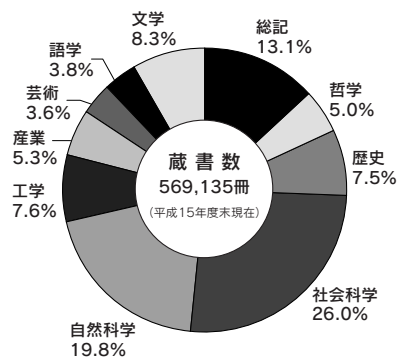
年度		和書	洋書	合計
13年度	本館	3,440	1,133	4,573
	医学分館	606	429	1,035
14年度	本館	3,467	1,016	4,483
	医学分館	481	393	874
15年度	本館	3,440	906	4,346
	医学分館	647	407	1,054

2. 図書館資料費

単位：千円

年度		図書館備付			研究室備付	合計
		文部科学省からの配当額	その他経費からの配当額	小計	その他経費からの配当額	
13年度	本館	15,238	22,495	37,733	138,557	176,290
	医学分館	2,592	53,342	55,934	3,056	58,990
14年度	本館	5,613	11,023	16,636	151,232	167,868
	医学分館	1,403	56,731	58,134	2,285	60,419
15年度	本館	5,329	25,671	31,000	131,585	162,585
	医学分館	1,275	58,420	59,695	1,984	61,679

蔵書分野別構成比率（本館）



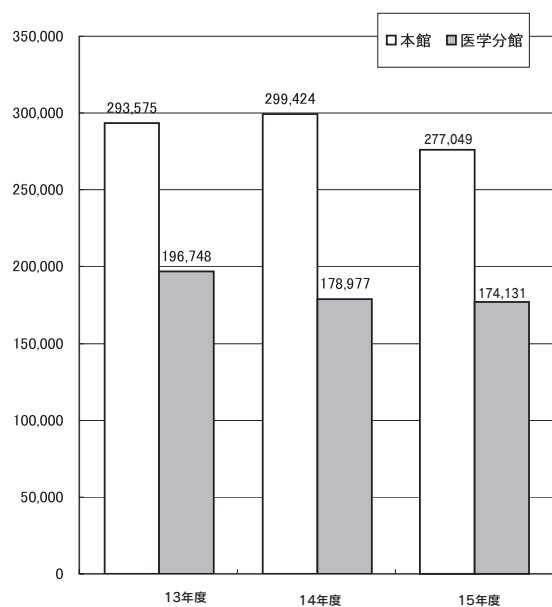
3. 利用統計

①利用対象者数

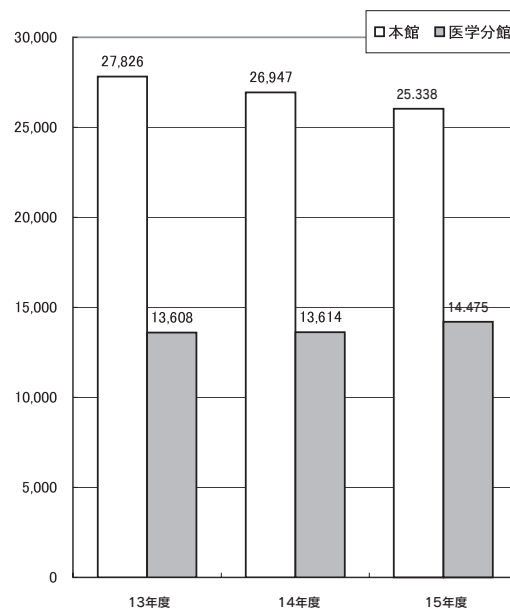
5月1日現在 単位：人

年度		学生	教職員	その他	合計
13年度	本館	6,546	1,048	282	7,876
	医学分館	925	1,356	-	2,281
14年度	本館	6,515	1,029	272	7,816
	医学分館	950	1,395	-	2,345
15年度	本館	6,546	1,223	290	8,059
	医学分館	962	1,320	-	2,282

②入館者数



③館外貸出状況



④学部別貸出状況（本館）

年度	文化教育学部		経済学部		理工学部		農学部	
	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)
13年度	3,341	6,396	1,625	2,974	6,853	11,684	2,373	3,908
14年度	3,309	6,219	1,539	2,738	6,338	10,774	2,662	4,396
15年度	3,253	6,152	1,430	2,495	5,956	9,872	2,295	3,700

⑤分野別貸出状況（本館）

年度	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	雑誌等
13年度	776	794	1,163	4,798	8,922	5,975	1,350	894	640	1,182	1,332
14年度	679	735	1,169	4,663	9,164	4,898	1,540	985	725	1,244	1,145
15年度	691	551	1,107	3,973	9,069	4,743	1,064	904	734	1,073	1,429

⑥各室利用状況（本館）

年度	グループ学習室(回)	閲覧個室(回)	マルチメディアルーム(回)	リスニングルーム(回)
13年度	385	419	1,233	1,070
14年度	364	148	1,305	713
15年度	486	103	1,301	737

4. 相互利用の状況

①文献複写件数

単位：件

年度		依頼	受託	合計
13年度	本館	2,533	2,414	4,947
	医学分館	5,906	3,996	9,902
14年度	本館	2,301	2,356	4,657
	医学分館	5,157	3,618	8,775
15年度	本館	2,252	1,834	4,086
	医学分館	4,556	3,828	8,384

②相互貸借件数（本館）

単位：件

年度	依頼	受託	合計
13年度	455	389	844
14年度	345	307	652
15年度	547	277	824

5. 情報検索の状況

①代行検索件数（本館）

年度	JOIS	DIALOG	NACSIS	合計
13年度	4	31	0	35
14年度	21	25	0	46
15年度	17	1	0	18

②CD-ROM利用件数(医学分館)

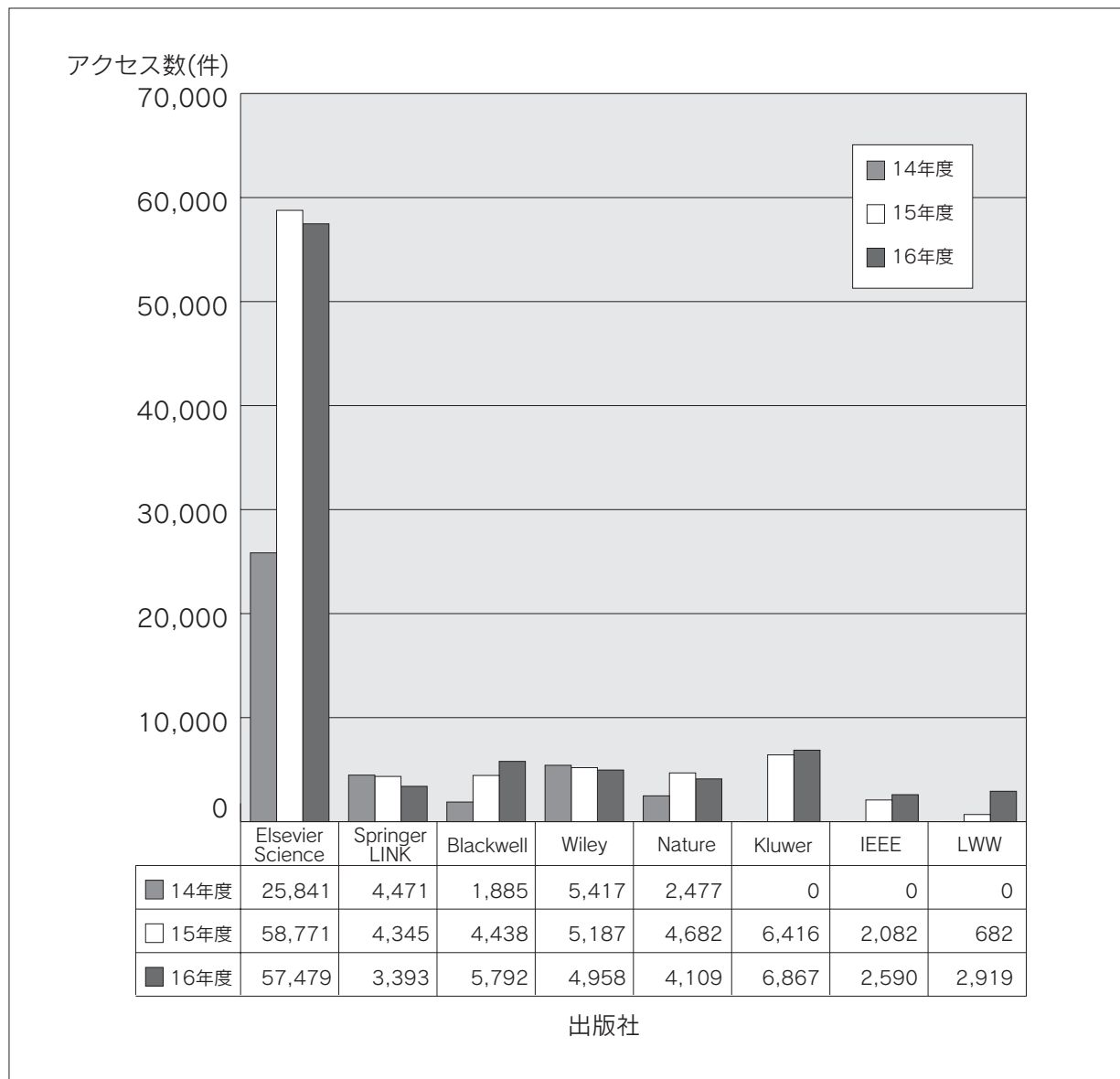
年度	件数
13年度	535,944
14年度	547,432

情報検索利用件数

年度	件数
15年度	132,494

(PubMed 利用件数は含まない。)

6. 電子ジャーナルアクセス状況



* 16年度は平成16年4月から11月までの統計

* LWW(15年度)は平成16年1月から3月までの統計

人事異動

	発令年月日	氏名	新官職	旧官職
退職	16. 4. 1	江崎尚武		学術研究協力部情報図書館課医学情報管理係
新任	16. 4. 1	小倉幸雄	附属図書館館長（併任）	
辞職 （転出）	16. 4. 1	甲斐重武	九州大学附属図書館情報システム課長	学術研究協力部情報図書館課長
採用 （転入）	16. 4. 1	金子弘康	学術研究協力部情報図書館課長	宮崎大学学術研究協力部情報図書館課専門員
昇任	16. 4. 1	森 暁子	学術研究協力部情報図書館課雑誌情報係長	学術研究協力部情報図書館課医学情報管理係司書
昇任	16. 4. 1	三浦聡子	学術研究協力部情報図書館課医学情報サービス係長	学術研究協力部情報図書館課医学情報サービス係主任
配置換	16. 4. 1	木村伸子	学術研究協力部情報図書館課課長補佐	学術研究協力部情報図書館課図書館専門員
配置換	16. 4. 1	福島正徳	学術研究協力部情報図書館課図書館情報係長	学術研究協力部情報図書館課雑誌情報係長
配置換	16. 4. 1	師富春子	学術研究協力部情報図書館課医学情報管理係主任	学術研究協力部情報図書館課医学情報サービス係主任
採用	16. 4. 1	児玉志帆	学術研究協力部情報図書館課医学情報サービス係司書	



図 書 館 目 誌 (会議・研修・来客等)

● 平成16年 ●

- 4月22日 第34回九州地区国立大学図書館協会総会
(当番館：福岡教育大学附属図書館、於福岡ガーデンパレス)
- 4月23日 第55回九州地区大学図書館協議会総会
(当番館：福岡教育大学附属図書館、於福岡ガーデンパレス)
- 5月20日 九州大学・ソウル大学校図書館間交流協定による国際セミナー
(於：九州大学附属図書館筑紫分館)
- 5月20日～21日 JOIS研修会 (於：研究成果活用プラザ福岡)
- 5月26日 附属図書館運営委員会 (第1回)
「中期目標・計画について」他
- 5月28日 平成16年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会
(理事館：西南女学院大学図書館、於西南女学院大学6号館会議室)
- 6月16日 附属図書館貴重資料・地域貢献専門委員会 (第1回)
「佐賀大学附属図書館貴重資料・地域貢献専門委員会要項 (案) について」他
- 6月9日～11日 平成16年度目録システム地域講習会 (図書コース) (於：熊本大学附属図書館)
- 6月18日 附属図書館選書専門委員会 (第1回)
「佐賀大学附属図書館選書専門委員会要項 (案) について」他
- 6月23日～25日 平成16年度目録システム講習会 (雑誌コース) (於：国立情報学研究所)
- 7月1日 第51回国立大学図書館協会総会
(当番館：大阪大学附属図書館、於大阪大学コンベンションセンター)
- 7月5日～16日 平成16年度大学図書館職員長期研修
(於：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター)
- 7月5日～23日 図書館実習生受入れ (筑波大学図書館情報専門学群生1名)
- 7月16日 平成16年度第1回佐賀県大学図書館協議会
(当番館：西九州大学附属図書館)
- 7月29日 附属図書館運営委員会 (第2回)
「平成16年度第1回運営委員会議事要旨 (案)」他
- 8月2日 オープンキャンパス (本庄地区)
- 8月4日 オープンキャンパス (鍋島地区)
- 8月9日 附属図書館医学分館運営委員会 (第1回)
「附属図書館医学分館の開館期間と開館時間について」他

- 8月10日～ 9月19日 小城鍋島藩と島原の乱展（於：小城町立歴史資料館）
- 9月10日 附属図書館選書専門委員会（第2回）
「平成16年度学生用図書を選定について」他
- 9月14日 附属図書館運営委員会（第3回）
「平成17年度以降の電子ジャーナルの導入について」他
- 9月27日 附属図書館運営委員会（第4回）
「平成17年度以降の電子ジャーナルの導入について」他
- 9月28日 平成16年度セクシュアル・ハラスメント防止等制度説明会
（於：福岡合同庁舎別館）
- 9月29日 平成16年度第1回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会
（於：久留米工業高等専門学校）
- 10月13日 附属図書館貴重資料・地域貢献専門委員会（第2回）
「短冊10点と色紙8点の展示について」
- 10月26日 館長（3者）会議（於：佐賀大学附属図書館）
- 〃 第52回九州地区医学図書館協議会総会
（当番館：九州歯科大学附属図書館、於 小倉リーセントホテル）
- 10月27日 「高校生が選ぶ『大学に入ったら読みたい本100選』結果発表
- 11月 9日 附属図書館主催文化講演会
芭蕉の文芸 ―古典への回帰を願って―
講師 佐賀市収入役 上野信好氏
- 11月18日～19日 平成16年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議
（当番館：福岡教育大学附属図書館）
- 11月20日 「佐賀大学オープンキャンパス」開催
～同時期（11月15日～11月22日）開催～
図書館特別展示 秘蔵コレクション公開（短冊・色紙）
- 11月24日 平成16年度九州地区国立大学附属図書館館長、事務（部・課）長合同会議等
（於：九州大学附属図書館）
- 11月26日 附属図書館運営委員会（第5回）
「平成17年度（パッケージ型）電子ジャーナル経費について」他
- 11月29日～30日 第17回国立大学図書館協会シンポジウム（西地区）
（於：広島大学中央図書館）
- 12月 9日 第12回九州地区医学図書館員セミナー（当番館：大分大学附属図書館医学分館）
- 12月15日 平成16年度第2回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会
（於：久留米大学御井図書館）
- 12月15日～17日 平成16年度佐賀大学新採用事務系職員研修（於：菱の実会館）

12月21日 「英米の潮流・海外図書館視察報告1」(於：九州大学附属図書館)

● 平成17年 ●

1月27日 附属図書館貴重資料・地域貢献専門委員会(第3回)
「貴重資料整備について」他

1月29日～30日 人間文化研究機構国文学研究資料館より来館
国文学文献資料の調査 一小城鍋島文庫の国文学関係書目一

2月9日 附属図書館医学分館運営委員会(第2回)
「平成16年度教育用及び研究用図書等の推薦結果について」他

2月9日～10日 平成16年度国立大学法人等新任課長・事務長研修
(於：東京医科歯科大学)

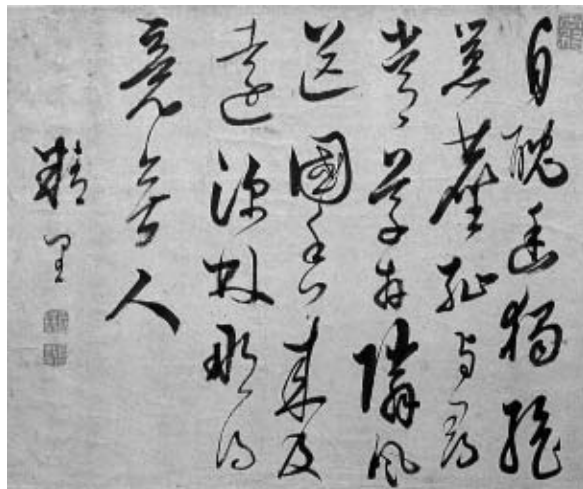
3月15日 附属図書館電子ジャーナル専門委員会(第1回)
「附属図書館電子ジャーナル専門委員会のスケジュール(案)について」他

表紙解説

文化教育学部教授 井上敏幸

古賀精里（1750～1817）。通称彌助、字は淳風。精里は号。佐賀藩儒から幕府儒官となり、寛政の三博士としてその名を知られた。長男穀堂は、佐賀藩参政禄、次男西滄は佐賀藩儒、三男侗庵は昌平黌教授。この三兄弟は劉氏三鳳と呼ばれた。

この七言絶句は、「蘭」という題で、『精里集抄』巻二に収まる。ただし、第三行目三字目の「存」は「卉」に改められている。



自耽幽獨絶
叢塵恥与尋
常草存隣風
送國香來及
遠深林那得
竟無人

蘭は、独りひそかに静けさにふけり、自分から俗世間のうるさを避けようとする。そのため、ほかの草木などと同じように扱われ、それらと一緒にされてしまうことを潔しとしない。ひとたび風が吹いてくると、国中で最も気高い香を、遠くの地まで送り届けるのである。したがって、どのように深い林の中にあっても、ついには人に知られてしまうことになる。



ひかり野 佐賀大学附属図書館報 No.29 2005年3月
編集発行 佐賀大学附属図書館 〒840-8502 佐賀市本庄町1番地
TEL (0952) 28-8902 FAX (0952) 28-8909
ホームページアドレス <http://www.lib.saga-u.ac.jp/>
印刷 株式会社 三光
